



第20号 2017.7.20 発行  
 発行者：株式会社協進印刷  
 編集者：JO 編集委員会

# 「あなたがいて良かった」と 言ってもらえる業界を目指して

横浜市資源リサイクル事業協同組合 企画室長 戸川孝則さん



資源化・リサイクルに関する様々な事業の企画立案を担当し、横浜市内の資源集団回収100%化や、横浜市内2万人の小学生が参加する「環境絵日記」を企画・運営。移動リサイクル教室の「出前講師」も務める。横浜環境活動賞審査委員長、グリーン購入ネットワーク代表理事など、各方面で活躍中。  
<http://www.recycledesign.or.jp/>

**江森**：環境絵日記という事業を長年にわたって続けてこられて、弊社でも昨年「地域企業賞」というカテゴリーに参加させていたideしております。この事業の目的は、リサイクルやごみの分別に対する意識を高めてもらおうことなんだろうと思いますが、対象を子どもにしたというのはどういう狙いがあったのですか。

**戸川**：私たちの仕事は皆さんがご家庭でごみの分別をしてくださって初めて成り立つわけで、ごみの分別をしてくださる人一人でも増やしていくことが、私たちの産業の発展にもつながっていくと考えています。つまり、なかなか分別に意識が向かない方、「まあいいか」と思ってしまったる方に、どうやったら分別の意識を持ってもらえるかということですが、私たちの大きな課題のひとつだったわけです。そこで学校の夏休み「家族で環境について話し合ってください

い」という宿題を出して、子どもから親に問題提起してもらえたら、さすがに子どもに言われたら親もやらざるを得ないだろうと（笑）。多少よこしまな感じもしないではないですが（笑）、たくさんの人を巻き込めるならいいだろうという考えで始めました。**江森**：初年度から1000作品以上の応募があったということですが、どうやって集めたのですか。

**戸川**：いやもう、知り合いを頼ってひとつひとつでした。ただ『リサイクルデザイン』という情報誌を町内会等に向けて発行していたので、話を聞いてくれる人が多かったというのの助かりました。でも、初年度に最低1000作品を集められなければ次はないと思っていたので、町内会に行ったり、小学校に行ったりと、実際はかなり動きまわした。ね。

**江森**：その後も順調に伸びていったのですか。

**戸川**：実は2年目に油断したわけではないのですが、応募数が700まで落ちてしまいました。こういうのって3年目がひとつの試金石になりますよね。失敗が許されない状況で迎えたのが3年目の2002年でした。

**江森**：サッカーワールドカップ日韓合同開催の年ですね。

**戸川**：その通りです！この年日韓の文化交流の気運が高まっていて、国の補助金もたくさん出ていたんですね。その中の内閣府の補助金を受けて環境絵日記を日韓合同開催にしたのです。

**江森**：それはすごい！韓国の小学校から募集したのですか？

**戸川**：在日韓国大使館に企画書を持ち込んでプレゼンしたら、ソウルは難しいけどインチョンならいいだろうということになっ

て、インチョン市内の185校が参加してくれました。その中から優秀作品に選ばれた6組の親子を授賞式に招待して、子どもたちから日韓共同宣言を発表してもらったりして、かなり盛り上がりました。この年は内外ともに環境絵日記の意義を認めてもらえたターニングポイントでしたね。

**江森**：今年は18回目ということですが、当初から比べて何か変化はありますか。

**戸川**：10回目に応募が1万作品を超えたのですが、大塚橋ホールで毎年開催している絵日記展で展示できるのって600作品なんです。せつかく1万人以上の子どもが私たちの呼びかけに答えてくれるのに、こちらからは何もお返しすることができない。これは違うんじゃないかと悩んでいたところ、富士ゼロックスさんがみなとみらいにR&Dスクエアを開設したのを機に、環境絵日記を応援したいと申し出てくれて



スキャナを貸してくれたのです。それで絵日記をデータ化して、ホームページに掲載したり、データで送ったりということができるようになりました。今では全作品がホームページで閲覧できますし、後の企業協賛にもつながっていく、大きな変化でした。

**江森**：昨年弊社で協力させていただいた「地域企業賞」というのも、企業側からするととても参加しやすいプログラムですね。

**戸川**：ありがとうございます。地域企業賞については「自社の社会貢献の目指す方向性が絵日記として可視化されるので全員で共有できて良かった」など、本当にうれしい声をいくつもいただいています。今後は、このような仕組みをもっと進化させて、頼りになる地元の企業が市内約350校のすべての小学校にしているという状況を作りたいです。企業にとっても\*ESDとかキャリア教育という、かなりのスキルを必要としますし、すべての小学校でということには少しハードルが高い。そこまでいなくても、とりあえず相談できる関係というか、入り口として環境絵日記を使ってもらえればと思っています。

**江森**：ここ数年の間に、廃棄物やリサイクルを巡る社会環境は急激に変わってきているように感じます。私たちの印刷産業も同

様ですが、業界としてはどのように対応されていますか。

**戸川**：2000年に循環型社会形成推進基本法というのができて、一般廃棄物の処理に加えてリサイクルも地方自治体の責務になりました。これは社会にとってはもちろん良いことなのですが、それを仕事にしてきた私たちからすると、自治体に仕事をとられちゃうことにもなりかねなかったわけです。そこで横浜では、行政が資源の回収をしないかわりに、町内会等で実施している資源集団回収を業界として100%実施するという政策の下、実際にそれを実現しています。今のところなんとか対応できていますが、この先もっと変わっていくと考えています。

**江森**：行政サービスの一翼を担う業界になってしまったということですね。そうなる社会的な責任も重くなりますし、CSRを考えざるを得なくなったという経緯もよくわかりました。

ところで、いよいよ今日の本題に入りますが(笑)、弊社でも環境の取り組みはいろいろやっていて、その一環として分別も一生懸命やろうとしているわけですが、そこにある種の限界を感じています。というのは、回収業者さんがある程度までしか対応してくれないために、せっかく分別しても意味がなくなってしまうということが起きているからです。一方で、「分別面倒だから全部一緒に持って行ってよ」という意識の会社もまだまだたくさんあるでしょうから、回収業者さんも、分別していなくても黙って持って行くことが良いサービスであるかのように錯覚してしまつ。まさに「負の連鎖」が起こっていると感じています。

**戸川**：リサイクルするには誰かがどこかで分別しなければならぬわけです。私は発生現場で分別するのが一番いいと思つていますが、今のところ分別の責任が明確になつていないことが問題なんだと思います。分別はなんとなくごみを排出する人の「善意」に任ざれていて、厳密に分けても適当にやってもメリットもデメリットもありませんからね。

現在EUで進められている政策で「サーキュラー・エコノミー」というのがあります。これはEU圏内から排出された廃棄物から再生材を作つて、EU圏内の企業がその再生材を使つて製品を作ることで経済を回していこうという政策です。つまり従来の「資源にする」という考え方をもう一歩進めて「材料にする」のです。当然そこには商品にするための品質管理が必要になりますから、良い排出事業者が得をして、悪い排出事業者は損をするという仕組みが導入されていくことになるでしょうね。

**江森**：それはいいですね。日本も早くそうなるといいと思います。

**戸川**：サーキュラー・エコノミーというところまではいっていませんが、経済産業省が「静脈産業のメジャー化」、つまりリサイ

クルの大企業を作つてしまおうという政策を推進しています。今や再生資源は世界中で取り合いになっていきますから、世界で戦えるレベルの企業が日本にないと、その分野で完全に遅れをとることになります。この政策が実現すると日本の廃棄物を巡る状況はかなり変わるでしょうね。

**江森**：原料から製品が作られる過程で細分化されたものを、もう一度集約して原料として再利用しようという話ですから、一番のポイントは「どうやって集めるか」ということになりそうです。つまり末端まで行つてしまった少量の資源を効率よく、かつ品質を維持したまま再び吸い上げるノウハウと組織力が必要になるわけで、自らを「静脈産業」だと名乗るからには「量が少ないから回収できません」という言い訳は通用しないでしょう。その点私は現状にかなり不満があります。

**戸川**：たぶん近い将来、少量でも回収できて、しかもきちんとリサイクルできる企業が出てくると思いますので、江森さんの不満も解消に向かうと思いますが、それだけに小規模の会社は対応が難しくなります。設備投資も必要ですし、勉強も必要になります。そういう時代に備えて、どうしたら生き残れるのかを考えた時に、やはり地域との信頼関係を築くことが大事で、そのためのCSRであり環境絵日記なんです。最終的に横浜市民の人たちに「あなたたちがいてくれて良かった」と言ってもらえるかどうか、その信頼を裏切らない限り、この先も私たちはここにおいて仕事をさせてもらえると信じています。

\* ESD (Education for Sustainable Development)  
持続可能な開発を実現するために発想し、行動できる人材を育成する教育。(ウィキペディアより)



# 持続可能な社会の実現に向けて「環境絵日記」をご活用ください！

・子どもたちからの社会へのメッセージ

## 「環境絵日記」

「子どもたちと一緒に家族で環境問題を考えるきっかけを作りたい！」という想いから始まった環境絵日記の活動は今年で18年目を迎えます。昨年も2万作品を超える応募があり、ここ数年は小学生のみなさんに横浜の未来を考えてもらう、「環境未来都市・横浜」の代表的な取り組みとなりました。

環境絵日記には子どもたちの描く未来の横浜の姿が映しだされています。そしてそれは、小学生が考える将来への不安や社会課題と表裏一体ともいえるのです。私たち大人はこの子どもたちから社会へのメッ

セージを受け止め、今の社会を変えていく必要があると私たちは感じています。

## ・環境絵日記を企業のCSRに活用する

事業者が収益性のみでなく社会的責任を問われる現代において、多くの企業がCSR（社会的責任）の具現化に向けて様々な活動を行っています。しかし「会社全体で取り組めていない」「社内の理解が得られない」「そもそも何の社会課題に取り組みやすいかわからない」など内部の課題を抱えている企業が多いのも事実です。

環境絵日記には社会課題が未来の姿という形で投影されています。そのメッセージ

は多種多様なので、解決にはそれぞれの課題に合ったプレーヤーが必要です。子どもたちの想いと、それを受け止める企業との出会いを取り持つのが「環境絵日記 地域企業賞」です。

## ・社員みんなで選ぶことで自社のすべきCSR活動が現れる

「環境絵日記 地域企業賞」は、地域の中から表彰する作品を選定し、企業の方が直接、小学校に赴き朝礼等で表彰していただく取り組みです。ですから「会社の所在地の〇〇地区の小学校」や「社長の卒業した〇〇小学校」のように地域性を活かせる表

彰制度となっています。

できるだけたくさんの方に参加していただき、「わが社に合った作品はどれだろう」とみんなで見つめることで、「〇〇企業の解決すべき社会課題」が自然と現れてきます。持続可能な社会の実現に向けての企業活動のひとつとして、「環境絵日記」をご活用いただければ嬉しいですね。

## 「お問い合わせ先」

横浜市資源リサイクル事業協同組合  
担当：島川 電話045-4444-2531  
<http://www.recycle.design.or.jp/enikki/yokohama.html>



弊社代表江森がワインにあうレシピをご紹介します。

## 白身魚のカルパッチョ サルサソース



ビン詰めのサルサソースを買ってませんか!?作った方がダンゼンおいしいですよ!そのままディップとしてトルティーヤチップにつけて食べてももちろんおいしいですが、今回は白身魚のカルパッチョに乗せてみました。

●材料 (2〜3人分) 白身魚刺身用…1 冊、玉ねぎ…1/2、トマト…大1個、ピーマン…1個、パプリカ赤…1/4、パクチー…適量、ハラペーニョ酢漬け…適量、オリーブオイル…大さじ1、ワインビネガー(酢)…大さじ2、レモン汁…少々、クミン(粉末)…少々、塩、コショウ…適量

### ●作り方

- ① 玉ねぎ、ピーマン、パプリカ、パクチー、ハラペーニョはみじん切り。食感を残したいときは大きめに。フードプロセッサーでもOK。トマトは湯むきして種をとり1cm角ぐらいに切る。
- ② ①に調味料をすべて入れ、かき混ぜればサルサソースのできあがり。
- ③ 白身魚(今回は鯛を使いました)をうす〜く切って皿に並べ、軽くオリーブオイル(分量外)をまわしかけ、②のをせて完成!

サルサソースの具は、トマトと玉ねぎとハラペーニョを外さなければ、他はなんでもOK。きゅうりやレタスを入れてもおいしい。ハラペーニョは生の青唐辛子でも。

### ●この料理にはこのワイン!

#### イケダワイナリー 樽熟甲州

日本の固有種である「甲州種」のワインは淡麗な味わいなので、白身魚によくあいます。勝沼周辺のワイナリーはどこもがんばっていますが、この樽熟甲州はとてコストが高く信頼できます。和食にもあう甲州なので、残った鯛は刺身にして、すだちでもしぼって醤油でどうぞ。なお、サルサソースをトルティーヤチップにつけて食べる場合は、やっぱりビールが一番です!

原産国：日本  
品種：甲州  
価格：1550円



## 米屋菓子舗

大口の魅力を紹介する「大口自慢」。今回ご紹介するのは、米屋菓子舗です。

創業は、なんと昭和25年！大口で幼少期を過ごした人なら誰でも知ってお店です。店内に

は最近では珍しくなった量り売りのお煎餅や飴玉が、昭和の香り漂うガラスケースいっぱいに並んでいます。お店の看板おじさんは掛作富夫さん。創業以来長期のお休みをしたことは一度もなく、今でも朝は配達、昼は店番と元気に働いています。お歳を聞いてびっくり！とても84歳にはみえません！「昔はさ、乾パンがよく売れたんだよ。協進さんのおばあちゃんがよくお孫さんと買いに来てくれたなあ。」と、40年以上も前の思い出話をしてくれました。おばあちゃん



かき氷 200円 ハーフサイズは 120円

んは先々代の社長、連れられていた孫というのは現社長です。

この季節大人気なのが、店頭で座って食べられるかき氷。シロップは何種類かけても

K!全種類かけはレインボーと呼ばれています。店頭で作りたい焼きは「夏でも冷たい物が苦手な方もいらっしやるからね」と、猛暑の夏にも焼き続けているという心遣い。お店の前では「おう！おかえり！」「おじちゃん暑くない」と、子どもも大人も笑顔で挨拶。忙しい現代には忘れられがちな人と人とのあったかい繋がりを感しました。大切にしたい大口の街の良さが詰まったお店です。

米屋菓子舗

横浜市神奈川区大通16

電話番号：045(401)6497

営業時間：10時～19時

定休日：年末年始以外ほぼ無休

大口自慢

## Kyoshin TODAY

### 地域災害時助け合いネットワーク

地震や水害など、大規模災害時に大口にある企業同士が助け合えるように、日頃からのネットワークづくりを始めています。まずは第一段階として近隣の企業をまわり、災害時の取り組みについて現状調査をしました。大企業では災害時のマニュアルが整備されていたり、独自に防災訓練を実施している企業もありましたが、多く企業では災害への備えがほとんどできていないことがわかりました。また、企業には行政や町内会からの防災情報が入ってこないため、指定避難場所を知らない人が多いこともわかりました。

いざというとき「顔見知り」であるかどうか、助け合えるかどうかのわかめになるといふ報告もあります。また帰宅困難に陥った場合には、この地域に働きにきている人が、何日かこの場所で避難生活を送る可能性もあります。

第二弾はキックオフミーティングの開催。住民と企業が助け合える地域づくりを目指して、これからも活動を継続していきます。

### 各種認定制度更新

今年度は各種認定制度の更新時期が重なり、年頭から大忙しでしたが、ようやくすべての審査が終了しました。

「横浜型地域貢献企業認定」4回目、「全印工連CSR認定ツースター」2回目、「よこはまグッドバランス賞」2回目を更新。神奈川県印刷工業組合が運営する「印刷業情報セキュリティマネジメントシステム(P-RISM)」の1回目更新は外部審査が無事終わり、認定の通知を待つばかりです。認定制度への申請作業を通じて、マネジメントシステム全体の見直しができ、とても良い機会になっています。

ブログもチェック！ <https://kyoshin-blog.com/>

### 3月のありがたうの日は「いまさら聞けないごみ分別とリサイクルのお話」

今号の巻頭対談に登場していただいた横浜市資源リサイクル事業協同組合の戸川孝則様に出前講師をお願いし、大口町第三町内会と共催で、ごみとリサイクルについての勉強会を開催しました。

当日は朝から公園で防災訓練をし、その後町内会館に場所を移して勉強会を開催しました。地元町内会だけでなく近隣からも約50名の方が参加してください、分別ワークショップなど参加型の勉強会は大いに盛り上がりました。終了後のアンケートでは、「勉強になった」「これからはきちんと分別します」「楽しく分かりやすいお話でした」などたくさんのお話をいただき、効果を実感することができました。今後とも地域の方々との取り組みを大切にしていきたいと思えます。



### 2016年度 CO2・産廃排出量

2016.4.1～2017.3.31

項目	排出量	前年比
CO <sub>2</sub>	22.3t	101%
廃油	0.19t	61%
廃アルカリ	0.08t	80%
廃プラ	0.06t	87%
金属くず	0.07t	116%
事業ごみ	765ℓ	77%

JO(ジェイ・オー)2017年7月号(第20号)

発行者：株式会社協進印刷

横浜市神奈川区大口仲町1-08番地

TEL:045(431)6611

FAX:0450(3730)6273

URL: <http://www.kyoshin-print.co.jp>

